



国際文化フォーラム
THE JAPAN FORUM

TJF

事業報告

2011
2012

子どもたちの未来を創る 外国語教育

公益財団法人国際文化フォーラム
評議員会長



野間 省伸

国際文化フォーラム(TJF)は公益財団法人として無事2年めを迎えることができました。これも皆さまからのお力添えあつてのことと、心より感謝申し上げます。

TJFは世界の人びとの相互理解をめざして、幅広い事業を行ってきました。特に力を入れてきたのが、海外における日本語教育や日本国内の中高校生を中心とした中国語や韓国語教育および相互の文化理解を促進する事業です。

これらの事業を有機的に結びつけ、外国語学習に新しい役割を与えるべく、2012年3月に発表されたのが『外国語学習のめやす』です。単なる道具としての言語を習得するのではなく、異なる文化的背景をもつ人びとが共生する社会を生きぬくために必要な、「対話力」や「社会づくりに参画する力」を身につけることこそ、これからの外国語教育が果たすべき使命であると定義しました。

TJFが隣語と呼ぶ中国語と韓国語教育の現場からの提案ではありますが、隣語の枠にとどまらない国内外の外国語教育関係者、NPOや人材育成に携わるさまざまな人たちに関心と支持を拡げつつあります。この動きを一つにまとめ、大きな力にすることで、これまでとは全く違った外国語教育が確立することを信じてやみません。

新しいことばや文化とであい、人とつながることは、一人の人の生き方を豊かにします。であいを重ねることで、世界とのつながりはより広くより深くなるでしょう。どんなことばや文化とであうかは人それぞれであっていいと思います。ましてこれからの世界を背負って「生きぬいていく」子どもたちには、一つでも多くの「であい」がより大きな輝きをもたらすことは間違いありません。

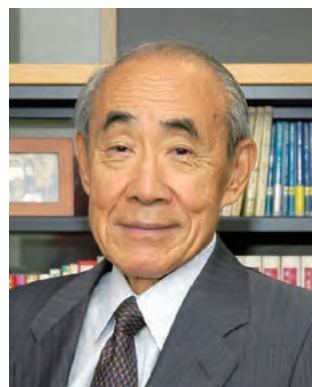
TJFは、「であい、つながる」を心に刻み、高く掲げてこれからも活動していきたいと思っております。

皆さまの一層のご支援とご助力をお願い申し上げます。

高校における 隣語学習のすすめ

公益財団法人国際文化フォーラム
理事長

渡邊 幸治



2012年3月、国際文化フォーラム(TJF)は、『外国語学習のめやす
2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』を発表しました。

TJFは、高等学校における中国語・韓国語教育の重要性を強く訴え、教師のネットワークづくりや研修会の開催、教材の作成をはじめさまざまなプロジェクトを推進しておりますが、とりわけこの「学習のめやす」の完成は、高校・大学の教師を含めた関係者の6年間にわたる献身的な努力の成果として、特筆されるべきものです。

国際化の推進という観点から英語教育の重要性は誰もが認めるところですが、英語を母語としない諸外国を見ると、中等教育において、英語+1ないしは+2の外国語教育を行う傾向が顕著になってきていると承知しています。これに対して、第二外国語を開講する日本の高校は少数です。わが国の隣国・隣人のことば、「隣語」である中国語、韓国語の授業を行っている高等学校ですら、2009年現在、約5,200校を数える全国の高校のうち、中国語は830校、韓国語は420校に過ぎない状況です。日中貿易がいまや日米貿易を上回り、また、韓国、中国・台湾の人びとが外国人入国者数の約55%を占めている状況を考えると少なすぎるといわざるをえません。

いまや世界の共通語となった英語に加えて、ほかの外国語を学ぶことは、視野を広げる点からも特に若い世代に重要なことでしょう。なかんずく隣語を学習する高校生の増加は、東アジアの一員である日本人の国際理解、国際交流の増進を図るうえで極めて望ましいのではないかと考えます。「学習のめやす」が起爆剤となり、日本の隣語教育が発展することを期待したいと思います。

特集 外国語教育に新たな役割を	4
——「学習のめやす」開発、6年間の軌跡——	
2011年度の主要事業をふり返る	8
2012年度の新しい取り組み	14
2011年度の決算報告	16
2011年度の実施事業一覧／主要事業データ	22
財団の概要・組織	27

*機関・団体の名称および肩書は事業実施時のものです。



TJFのミッション

人やモノや情報が国や地域を超えて行き交う時代となり、学校でも、地域、職場でも、多言語多文化状況が進んでいます。このグローバル社会化がますます拡大するなかで、子どもたちの活躍の舞台は世界に直接つながっていくでしょう。

このような時代を生きる子どもたちが未来を切りひらいていくために必要な力は何でしょうか。他者と対話する力、共感できる力、異なることば・異なる文化の人びとと協働し、新しい何かを創造する力……。

わたしたちはこれらの力を育むために、日本と海外の子どもたちが、互いのことばと文化を学び、交流する場をつくっています。

ことばと文化の学び、そして交流

～日本の高校における外国語教育の促進～

日本にとって重要なパートナーである隣国・隣人のことば「隣語」をはじめとする外国語の学びが新しい役割を担う環境を整えています。

～海外の小中高校における日本語教育のサポート～

海外の小中高校で日本語を学んでいる200万人を超える子どもたちに、かれらが興味をもっている、いまの日本の文化や若者の素顔・日常生活についての情報を発信し、日本語教育をサポートしています。

～異なることばや文化的背景をもつ中高校生の交流を実現～

違いを超えて互いを「身近な存在」と感じ、他者への共感や理解を深め、自分自身を振り返り、広い視野を獲得していけるよう、サマーキャンプやウェブサイトなど交流の場をつくっています。

外国語教育に新たな役割を

特集

2012年3月3日、上智大学国際言語情報研究所と共催したシンポジウム「^{あす}未来を生きぬくための外国語教育に挑む」で、『外国語学習のめやす2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』を発表しました。これは、「人間形成とグローバル社会を生きぬく力の育成をめざす外国語教育」の提案でもあります。

TJFは、外国語教育は学習した言語を使ってその話者とコミュニケーションすること、そして言語と不可分の文化に焦点をあて、文化理解を深めることをめざすものだと考えてきました。さらに、多様な言語や文化的背景をもつ人たちが共に暮らす社会で、学習した言語を使って生徒たちが社会的な活動をしていけるようになることをめざすべきだと考えるようにな

りました。それには、言語運用と文化理解に加えて、21世紀のグローバル社会を生きるためのさまざまなスキルや能力(コンピテンシー)の養成も重要です。外国語教育はこのような力を育むことに大きな役割を果たせる。そのためには、どんな目標、内容、方法で外国語教育を実施すればいいのか。この課題に向けてプロジェクトチームを立ち上げ、6年間模索してきました。



『外国語学習のめやす2012』作成メンバー（一番上から右回りに）

當作靖彦氏、任喜久子氏、植村麻紀子氏、釜田聡氏、金順玉氏、金孝卿氏、胡興智氏、胡玉華氏、中野佳代子氏、千場由美子氏、中川正臣氏、阪堂千津子氏、藤井達也氏、森茂岳雄氏、山崎直樹氏、山下誠氏（所属はp.25をご覧ください。）

プロジェクト始動までの経緯

TJFは、1990年代後半から韓国語と中国語を「隣語」と呼び、日中韓の政府機関、民間の財団、高校や大学、そしてそこで教える先生方と協力しながら、日本の高校における隣語教育の充実をめざしてきました。教師のネットワークづくりやさまざまな情報提供をしながら、隣語教育が抱える問題に少しずつ解決の道筋をつけていくなかで、大きな課題として浮かび上がってきたのがガイドラインづくりでした。高校の学習指導要領では、英語以外の外国語は英語に準じると記されているだけで、具体的な目標や学習すべき語彙・表現など指針となるものが何ひとつ述べられていません。

2005年、文部科学省が公募していた「わかる授業実現のための教員の指導力向上プログラム」に、中国語と韓国語の授業改善に関する研究を申請してはどうかとの話がTJFにあり、これが大きな契機となりました。

2006年1月8日、TJFの事務所にTJFと同じ志を抱いた16人のメンバーが集い、2年度にわたる文科省の委嘱事業「高等学校における中国語と韓国朝鮮語の目標・内容・方法に関する研究」として、「外国語学習のめやす」はスタートしました。

隣語教育に新しい風を吹き込む

当時、米国や欧州では、ネイティブと同じように話せることを目標とするのではなく、学習者中心、内容重視、コミュニケーション志向など、新しい外国語教育が始まっていました。

それを隣語教育に取り入れたいと、1999年米国で発表された「外国語学習のナショナルスタンダード(Standards for Foreign Language Learning: Preparing for the 21st Century)」や2001年に欧州評議会が発表した「ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages: CEFR)」など、先行研究の検討を始めます。しかし、CEFRは英文で264ページ、ナショナルスタンダードも46ページ。これらを理解するにはそれぞれの背景にある外国語教育理論や、世界の外国語教育がめざすものについての知識が求められました。こうした膨大な量の情報をわかりやすく解説する役を一手に引き受け、外国語教育の新しい風を吹き込んでくれたのは、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授でした。ナショナルスタンダード作成メンバーの一人である當作教授は、その役目を果たすため6年にわたって何度も日米を往復してくださいました。

「これからの中国語・韓国語教育にはビジョンが必要だ。ナショナルスタン

ダードの作成にあたって、何よりも先に外国語を学ぶ意味を検討した」

當作教授の話を受け、プロジェクトチームは議論し、隣語を学ぶ意味として、(1)他者の発見(異文化の受容、隣なるものの認識、他を知るよろこび、他の相対化・対象化)、(2)自己の発見(自らを知るよろこび、自らの相対化・対象化)、(3)つながりの実現(わかちあい、わかりあい)があると確認しました。これらはその後「外国語学習のめやす」完成に至るまでずっとつながっていく、プロジェクトのビジョンとなりました。

パラダイムシフト

「授業の目標は、ハングルが読めるようになることです」「言語に関する知識(文法・語彙・発音)を蓄積すればやがては使えるようになるのだから、それまでは我慢して勉強しよう」、このような授業が当たり前に行われていました。この点について、當作教授はメンバーにこう問いかけました。

「外国語学習の目標は、文法や語彙の知識を増やすことだろうか。本当の目標はコミュニケーションができるようになることであり、文法や語彙はその目標を達成するための言語知識にすぎないのではないか」

當作教授にこれまでの常識を否定された教師たちは戸惑いました。しかし、教師自身も今のままでいいのかと疑問に思っていたのです。中国語や韓国語の初めての授業で、生徒たちはこう聞きます。「先生、この授業取ったら、しゃべれるようになる?」

彼らには、はっきりした目的がありました。学んだことばを使って中国や韓国の人と友だちになり、旅行や買い物、食事ができるになりたいのです。教科書を順番どおりに教えていたのでは、1年たってもそこまで到達できないことに教師も気づいていました。

生徒たちの気持ちに応えたいとの思いが、次の一歩へとつながります。まず生徒が興味をもっていたり、生徒に関心をもってもらいたいと思うテーマを中国語は16、韓国語は13選びました。次に、生徒がそれぞれのテーマで具体的に中国語や韓国語を使ってどのようなことをしたいのか、教師として目の前の生徒にどのようなことができるようになってほしいかを検討しました。その結果、テーマごと、四つの学習レベル別に、「～ができる」という能力記述文(Can-do Statements)のかたちのコミュニケーション能力指標ができあがりました。

この指標を中心に、委嘱研究の報告書として『高等学校の中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす(試行版)』が2007年3月にまとめられました。

次なるステージへ

学習のめやすが目標とする「人間形成とグローバル社会を生きていく力の育成」のためには、具体的にどんな力を身につけたらいいのか。それが新しい課題でした。2009年3月、當作教授を含め、集まったメンバーはこの目標を達成するために、まず文化領域に注目しました。外国語を学ぶなかで、文化は多様であり変化していくものと見る視点を身につけられるよう、テーマごとに文化事象を取り上げ、どのように捉えるかヒントを挙げました。

次に重視したのが、多様なことばと文化的背景をもつ人びとと積極的に対話し、共に新たな社会をつくっていく能力でした。言語と文化に加え、第三の領域としてグローバル社会が誕生します。それぞれの領域で身につける能力は「わかる」力(知識・理解目標)、「できる」力(技能目標)、「つながる」力(関係性構築目標)の三つとし、3×3(スリー・バイ・スリー)のかたちで

きあがりました。「わかる」と「できる」に着目している人たちはいましたが、「つながる」力の育成をめざした外国語教育の提言は初めてといえるかもしれません。

さらに、三つの連繫が三つの領域、三つの能力を強化すると提案しました。連繫の一つめは、授業の中心である生徒の関心・意欲・態度や得意とする学習スタイルにつなげることです。こうすることで生徒たちは主体的、能動的に学習を行えるようになり、生涯にわたって学習を継続できるようになることをねらっています。

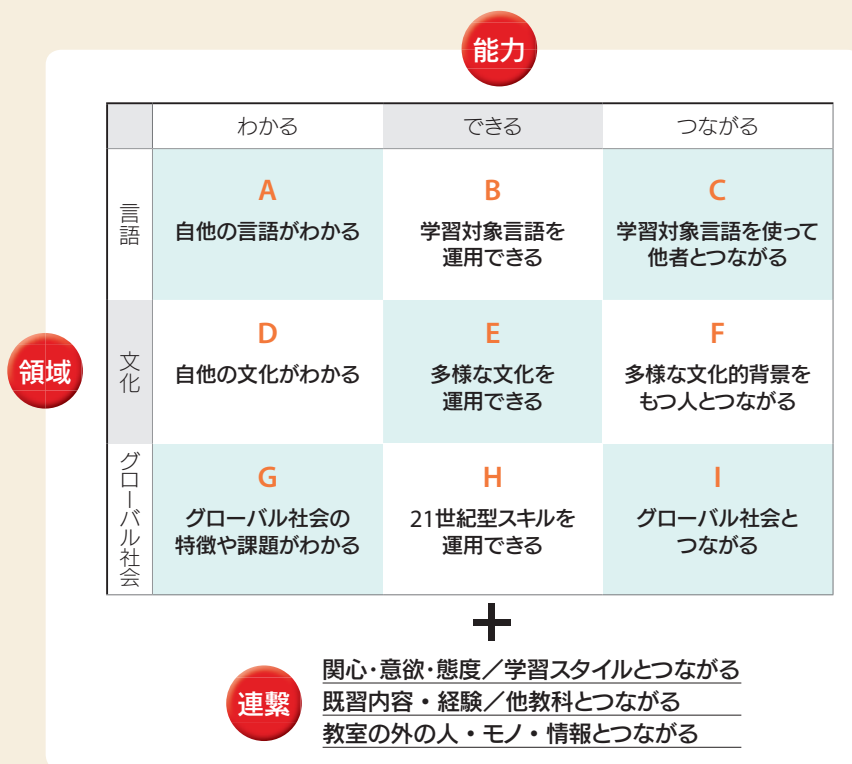
二つめは、授業で取り上げる内容を、生徒たちがこれまで学習したことや経験したこと、他教科で現在学んでいる内容とつなげることです。これによって学習効果が高まり、外国語の授業で扱う内容が豊かになります。

三つめは、教室外の人、モノ、情報を積極的に教室に持ち込んだり、また教室外にでかけていったりして、教室での学びを現実社会とつなげることです。これによって学習がリアルになります。これら三つの領域における三つの能力と三つの連繫を3×3+3(スリー・バイ・スリー・プラス・スリー)と呼ぶことにしました。

この3×3+3を授業で実際に行うには何が必要か。そのための効果的な方法として當作教授から紹介されたのが、学習シナリオです。最終的な活動の目的、場面状況、コミュニケーションの相手などを設定してから、一連の活



試行版の表紙



3×3+3(スリー・パイ・スリー・プラス・スリー)の構成図

動を脚本を書くように考えていくのです。

生徒たちが「わかる」「できる」「つながる」力のすべてを獲得することをめざしたシナリオでは、中国や韓国を訪問したり、隣国からの訪問団を受け入れたりといった筋書きになってしまうのは当然のことです。ただ現実にはこうした機会はすべての学校にあるわけではありません。せっかくシナリオを作っても、実行するのは難しいと敬遠されてしまうのではないかと意見も出ました。

しかし中国語や韓国語を母語とする人は、いまや身のまわりにたくさんいます。インターネットに簡単にアクセスできる状況からも、教師のやる気と工夫次第で、リアルな活動、学習者にとって意味があって動機が高まるシナリオは作れるはずだと、メンバーたちは創造力をフルに発揮し、120のバラエティー豊かなシナリオが、複数回の授業をまとめた単元案のかたちで実を結びました。

隣語から外国語教育を変える

「めやす」づくりに取り組むことは、高校の中国語教育と韓国語教育だけでなく、外国語を学ぶことそのものの意義を問うことでした。現在の社会状況を踏まえたコミュニケーション能力の獲得、そのための外国語教育の内容、方法について見つめ直すことでもあり

ます。その思いを、タイトル『外国語学習のめやす2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』に込めました。

今の教育では「習得した知識技能を活用して課題を探究する」ことが求められています。「めやす」はさらに踏み込んで、課題の解決方法を考えたり、解決に向けて行動を起こすことができる人材を育てる外国語教育をめざしています。学びのあり方をさらに発展させる可能性が高く、教科を越えて広がる普遍性をもっています。21世紀の多言語多文化社会で共に生きていく力を身につけることこそが、外国語教育の新たな役割であると確信しています。

3月の冊子発行、6月の「めやすWeb」のオープンをもって、ひとまず目標は達成しました。TJFの提案は予想以上の反響をもって迎えられています。しかし、ここからが新しい出発です。

「ナショナルスタンダーズの提案が、教師の間で共有されるまでには、10年かかった」という當作教授のことばが今、重みをもって感じられます。

『外国語学習のめやす2012』で提案した新しい外国語教育の実践を広めていくことがこれからのミッションです。

水口景子

めやすWeb
トップページ



2011年度の 主要事業を ふり返る

2011年度も、海外の小中高校における日本語教育、日本の高校における中国語教育と韓国語教育を中心に事業を展開しました。カリキュラム・教材・素材の開発と提供、教師研修の実施、教育行政機関への働きかけなど環境整備を進めるとともに、互いの言語を学ぶ世界の中高校生の交流を促進しました。

『好朋友』を 中国全土に広める第一歩

東北三省の第一外国語(以下、一外)としての日本語教育が英語教育の勢いに押され縮小している現状をふまえ、TJFは大連市教育局と協力し、第二外国語(以下、二外)としての日本語教育を促進してきました。大連教育学院と共同で中学生向け日本語教材『好朋友 ともだち』(全5巻)を作成したほか、大連市以外の東北三省の教育リーダーに働きかけた結果、二外日本語教育は少しずつ広がっています。

2011年度も東北三省での二外日本語の新規開講を促進するため、吉林省と遼寧省の教育リーダーや日本語教育実施校の校長を招聘して日本の教育や文化についての理解を深めてもらう機会を設けました。〔→主要事業データp.24〕

また、2010年度に二外日本語の教師を対象に開催した『好朋友』の理念や特徴、使い方を理解してもらうためのワークショップが好評だったことから、引き続き2011年度も開催し、『好朋友』を使用した授業の実践報告や模擬授業などを行いました。同時に、一外日本語の教師を対象とする研修も行いました。受験を重視する一外日本語は文法中心の授業になりがちですが、コミュニケーション能力を育む生徒参加型の学習活動を授業に取り入れることに理解と共感を示す教師が多く、日々の授業のなかで少しでも取り組んでいきたいという前向きな声が上がっていました。両研修合わせて3日間で65名が参加し、終了後はSNS上でコミュニティをつくるなど、教師がネット

中国で日本語を学ぶ生徒と日本語教師のための「好朋友web」をオープンした。



中国東北三省の日本語教師を対象に行った『好朋友』を使ったワークショップ。1日目の研修では、グループごとに二外日本語の意義と目標を発表。

ワークを構築する貴重なきっかけになりました。〔→主要事業データp.24〕

さらに二外日本語を促進するために「好朋友web」を開設し、『好朋友』に掲載した連載漫画「大連物語」をはじめ、授業で活用できるコンテンツと教師サポート情報を掲載しました。漫画の台詞を日中両言語で閲覧できるだけでなく、音声も聞くことができ、日本語の特徴のひとつである擬音語や擬態語に関する説明を漫画のコマ上で閲覧できる仕掛けも取り入れました。

これにより、日本語を学びたくても学ぶ環境にない生徒に独学の機会を提供するとともに、東北三省内の二外日本語の教師だけでなく、中国全土に『好朋友』を広める第一歩を踏み出すことができました。



吉林省の教育代表団は早稲田大学高等学院を訪問した。中国語の授業に飛び入り参加をした長春日章学園高校・王宇輝校長(左)。

米国ウィスコンシン州で 新プロジェクト始動

米国ウィスコンシン州は、1980年代よりTJFが日本語教育の拠点として支援してきた地域です。特にメナーシャ合同学区は米国内でも有数の拠点で、幼稚園から高校まで一貫した日本語教育を実施しています。昨今の教育予算の削減、さらには中国語教育の台頭もあり、メナーシャ合同学区でも日本語教育の衰退が心配されていました。2010年度に同区の教育長らを日本に招聘したことがきっかけとなり、同区はWorld Languages(外国語教育)を学区の特色として、21世紀を生きる子どもたちにとって必要なスキルを育成する構想を打ち出し、日本語教育をその中核のひとつにしました。

この構想はTJFがめざしている事業目標に合致し、それまでに蓄積してきた外国語教育と交流を結びつけるノウハウをさらに充実させることができると考えて協力することにした。その一環として、同区の「21世紀のスキルの育成をめざした日本語教育プログラム」に対し、2011年度から3年度にわたり、(株)講談社から年額200万円の特別寄附金を受けることになりました。7月にはTJF事務局長が訪問し、寄附金の贈呈式を行いました。



贈呈式で寄附への謝意を述べるコピルスキー教育長。前年にTJFの招聘で訪日した際のエピソードを交えつつ、日本語教育の意義を地域住民にPRした。

この寄附金により、日本語の履修を希望しながらも時間割の都合で学習を継続できない生徒を対象とするオンラインコースを開講するとともに、保護者や地域住民も利用できる日本語学習支援ウェブサイトを開設することになりました。また、課題

解決型学習を導入したカリキュラムの開発と、日米の生徒をつなぐ交流活動の基盤づくりも始めました。2012年3月から4月には(社)尚友倶楽部の助成を得て招聘した日本語教員3名、小学校校長1名が、交流の日本側カウンターパートとなる学校5校を訪問して準備のための会合を行いました。〔→主要事業データp.24〕

国や州の政権交代、財政難など、米国の教育をとりまく環境がめまぐるしく変わるなかで、日本語をはじめとする外国語教育プログラムを維持するには、生徒、保護者をはじめ、プログラム継続の可否について発言権をもつ、一般の地域



日本の中学校とスカイプで交流し、学んだ日本語で話をするメナーシャの中高校生たち。ノートパソコンにとりつけたウェブカメラに全員で写ろうと身体を寄せ合う。

©Lynn Sessler

住民の理解を得なければなりません。日本語や日本の文化を学び、日本の人たちと交流することで教育が豊かになったと感じる人がますます増えるよう、引き続き働きかけていきたいと思います。

ウェブサイトで 日本の情報を発信

海外で日本語を学んでいる小中高校生は200万人を超えています。日本の同世代の生活を知りたいという海外の中高校生や日本に関心をもっている人たちのニーズに応えるため、海外の日本語教師向けに年4回発行してきた中文情報誌『ひだまり』(1999年創刊：1,900部)と英文情報誌『Takarabako』(2004年創刊：6,000部)を、2011年度2号をもって休刊し、ウェブサイト「くりっくにつぼん」に一本化しました。〔→主要事業データp.24〕

『ひだまり』は中国の中高校の日本語教師約1,500人に、『Takarabako』はおもに英語圏(米国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、英国など)で日本語教育、日本理解教育、国際理解教育などに携わる小中高校の教師約4,700人に、無料で送付してきました。両誌とも、日本で話題のトピックから、日本語を学ぶ子どもたちが関心をもつものを取り上げ、その背景や歴史的経緯、世界とのつながり、関連する人物などを多面的に紹介してきました。日本文化というマクロの視点と、具体的な人物を通してのミクロの視点の双方向からテーマを掘り下げ、日本や日本の同世代について理解を深めてもらうと同時に、自分たちの文化や自分自身と比較して、多様な生き方や考え方があることを知り、視野を広げて

もらうことを願って制作していました。

他方、「くりっくにっぼん」は、2009年のオープン以来、この二誌に掲載した記事に加え、誌面では紹介できなかった関連情報や音声を投稿載し、世界各国の日本語教師から寄せられた日本語のクラスアイデアも紹介してきました。

休刊する二誌の特長を引き継ぎながら、ウェブサイトの特性をより生かした形にリニューアルし、海外の日本語教師に限らず、日本や異文化体験に関心のある人たちに、さらには国内の中高校生にもアクセスしてもらえる情報交流の場になりたいと考えています。2012年10月にリニューアルオープンの予定です。

隣語ネットワークの広がり

TJFは、日本にとって隣国・隣人のことばである中国語と韓国語を「隣語」と呼んでいます。全国で、中国語・韓国語教育を導入している高校は、それぞれ約16%、8%とまだ少

なく、隣語教育を促進するために各種のプログラムを実施しています。

2008年度から、TJFは各都道府県の教育行政関係者や学校の責任者に、中国や中国語教育に対する理解を深めてもらうため、校長や教育行政者を中国各地に派遣しています。これは中国国家漢弁(国外における中国語・中国文化を普及するための中国政府機関。以下、漢弁)が主催するもので、TJFは企画・実施を担っています。2011年度は、11月に5日間の日程で12都道府県から17人を黒龍江省ハルビン市に派遣しました。黒龍江省教育庁で中国の教育事情について説明を受け、意見交換をしたほか、市内の学校を訪問して教師、生徒と直接交流しました。帰国後、休眠状態だった中国語の授業を復活させたり、新規開講を実現させるなど目に見える成果を上げています。〔→主要事業データp.24〕

また、日本で中国語を教える教師を対象に、第2次日中教育交流5ヵ年計画の一環として、2004年度より吉林大学



英文情報紙「Takarabako」



中文情報紙「ひだまり」



いまの日本と若い人びとの姿を日英中の3言語で伝える。



これまで刊行した情報誌をe-Bookとしてまとめた。
<http://link.tjf.or.jp/ebook>
<http://link.tjf.or.jp/ebookc>





ハルビン市の高校を訪れた日本の教育代表团。生徒たちと日本語で懇談した。

(中国長春市)で、文部科学省、中国国家教育部、漢弁とTJFの共催で研修を行っており、2011年度は11名が参加しました。応募資格を日本の中国語教育の現状に合わせて見直すことを中国側に提案し、2011年度からリピーターや永住者資格をもつ中国籍の教員も参加できるようになりました。〔→主要事業データp.24〕

さらに、学校に講座がないため中国語や韓国語を学べない中高生が多いことから、2011年度も外部の機関とともに無料講座の開講に努めました。韓国語は、駐日韓国大使館韓国文化院および駐日韓国文化院世宗学堂との共催で「中高生のための韓国語講座2011」を開催しました。また、TJFが韓国教育院に協力を依頼した結果、拓殖大学第一高等学校の課外授業として韓国語講座の開設も実現しました。

中国語は、桜美林大学孔子学院主催の「学んでみよう中国語!」に協力したほか、ISI国際学院と共催で「楽しく学ば

う! 中国語」を開講し、受講生のうち4名はTJFが実施する日中高校生のサマーキャンプ〔→p.13〕にも参加しました。これらの講座が、東京だけでなく各地で行われるよう関係機関に働きかけていきたいと思います。〔→主要事業データpp.24-25〕

隣語関係者のネットワークを広げていくためには情報発信が不可欠です。2011年2月にこれまで発行してきたニュースレターに代えてRingoメルマガを創刊し、6月には「Ringo」ウェブサイトを開設しました。このウェブサイトでは、TJFが関わっている隣語教育関連の事業に関するお知らせや報告だけでなく、中国や韓国の文化を写真とエッセイで紹介する「注目の一枚」、現場教師の活躍や思いを紹介する「先生の輪・話・和」、高校から中国語や韓国語を学び世界に飛び出そうとする学生を紹介する「先輩につづけ」などのコーナーを設けています。ウェブ更新などの情報を届けるRingoメルマガの登録者数は450名を超えました。

新しい外国語教育の推進

2009年度から「学習のめやす」の理念を共有する研修会を開催しています。研修の前半は隣語だけでなくほかの外国語の教師も対象に含め、新しい外国語教育の理念や内容、方法について當作靖彦氏(米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)が講義し、後半は高校の中国語と韓国語の教師向けに実践的なワークショップを実施しています。

ワークショップには約90人が参加し、教科書を「学習のめやす」に則して活用する授業案を作成しました。〔→主要事業データp.25〕



中高生を対象とする韓国語講座。定員を超える23名から受講申込があった。



長春で日本の高校中国語教師のための研修を開催した。研修の仕上げとして受講者たちが制作・自演した寸劇『日中国際結婚』。祝詞の内容や招待客の人選に日中文化の違いを表現した。



Ringoウェブサイト。「注目の一枚」は中国と韓国ならではの写真を掲載し、その解説を日中、日韓の2言語で読めるコラム。



「真のコミュニケーションとは何か？」と常に研修生に問いかける當作氏。

7月31日には、この研修を発展させる形でミニシンポジウム「21世紀の日本の外国語教育を考える」を開催しました。外国語教育関係者のネットワークは言語ごとに分かれています。このシンポジウムには、中・韓・英・仏・独・露・西・日の各言語の教育に携わる約120人が参加しました。高校の中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の教師から実践報告があった後、日本の外国語(英語)教育政策に関する現状報告と課題や、米国の外国語教育から学ぶべきことがパネリストから提示されました。これを受けて、学ぶ側に多様な外国語教育の選択肢を保障すべきだという意見が出され、そのために各言語教育関係者が連携する必要性があると参加者間で共有されました。これを契機として、さまざまな外国語の教育関係者のネットワーク構築への動きが活発化しました。〔→主要事業データp.25〕

2012年3月3日には『外国語学習のめやす2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』の完成発表に合わせてシンポジウム「^{あす}未来を生きぬくための外国語教育に挑む」を上智大学国際言語情報研究所と共催しました。

高校や大学で外国語教育に携わる教員や管理職、国際交流に関わるNPO関係者など169名が参加しました。これからの時代に必要な外国語教育とは何か、外国語を学ぶことの意義や使命とは何かをともに考え、新しい外国語教育が実現するために必要な方策を探るパネルディスカッションとグループディスカッションを行いました。〔→主要事業データpp.25-26〕

中高校生の コミュニケーション力を高める

ウェブサイト「つながる」は、世界の中高校生がウェブ上で交流することを通じて他者に対する理解を深め、自分について振り返り、互いのつながりを実感してもらうことをめざしています。2011年度は国際交流に関心をもつ国内外の中高校生、英語、中国語、韓国語など外国語を学習している日本の中高校生、海外で日本語を学習している中高校生など合わせて534人と教師27人が新たに「つながる」に登録し、20ヵ国・地域の中高校生約1,450人と教師約200人が利用しています。

また、沖縄県高等学校中国語教育研究会ICT国際交流学習部会の「異なる背景をもつ同世代とコミュニケーションする力、協働する力およびICTリテラシーの育成をめざした外国語教育のモデルづくり——SNS等を活用した実践研究」の企画・実施に協力しました。この研究は、(公財)パナソニック教育財団の第37回(平成23年度)実践研究助成を受けて行われました。

沖縄、大阪、高雄(台湾)の高校生36人が参加し、テレビ会議システムや「つながる」などを利用して、自己紹介、学校生活についてのやりとり、E-mailの書き方など、外国語の授業で学習した内容をすぐに実際のコミュニケーションで使う活動を行いました。定期的にテレビ会議を行ったことで、離れていても相手の顔を見ながらプロジェクトに取り組むことができ、生徒のモチベーションを維持することができました。

最後に、3校の混合グループで「沖縄、高雄、大阪の三つの地域のつながりのよさを、それぞれの地元市民にPRするCM」づくりに取り組みました。多様な背景をもつ同世代と



沖縄、大阪、高雄(台湾)の高校生が、三つの地域のつながりを自分の地域の人たちに伝えるCMづくりに取り組んだ。

協働してモノを創りあげるプロセスを体験した生徒たちは、コミュニケーションするためにもっとことばを学びたいと意欲が高まったばかりでなく、自分の意見や考え、気持ちを伝えることの難しさ、相手の意見を聞くことの大切さを知り、仲間と協力してなにかを創りあげる達成感を味わいました。

今後このようなプログラムを学校現場で継続的かつ効果的に実施していくためには、目標と活動内容をより連繋させた指導計画を作成し、目標にあった評価方法を導入することが課題です。2012年度は、TJFの主催事業として実践を進め、年間指導計画の作成、ポートフォリオやルーブリックなどを取り入れた評価に取り組めます。

互いのことばを学ぶ高校生の直接交流

中国語を学ぶ生徒が中国を訪れ、習った中国語を使って同世代と交流することは、相互理解を進めるうえで大きな効果があります。

2007年度より文部科学省の協力を得て、TJFは「漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ」(中国国家漢弁主催)の企画と実施を担当してきました。

「日中高校生のサマーキャンプ」での中国語の授業。習った表現を使って買い物の練習。



©大木茂



©大木茂

日中混成チームで取り組む文化祭の準備。学んだことばを駆使してクイズの企画を検討中。

2011年度は、中国語を学ぶ日本の高校生のための「漢語橋」と、日本語を学ぶ中国の高校生のための「日本語橋」を、「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」として合同開催しました。参加者が学んだ中国語と日本語を実際のコミュニケーションで使うこと、他者と意見を調整し新しいモノや価値を創り出す協同活動を体験してもらうことを目的にプログラムを構成しました。参加した日本の高校生90人、中国の高校生46人は、会場となった高校の寮でいっしょに生活しながら、コミュニケーションを重視した参加型の中国語・日本語の授業をうけ、最終日の「サマキャン☆文化祭」に向けて協同活動に取り組みました。最初はことばが十分に通じず戸惑う姿も見られましたが、そのうち、文化祭本番に向けて少しでもいい企画を作ろうと、全身を使って伝えあうようになりました。「いろんな方法で相手に伝えようと格闘しているうちに、コミュニケーションの引き出しが増えた気がする」「今まで何のために外国語を勉強しているかわからなかったけど、それがわかった気がする。将来は、中国かオーストラリアに留学したい」というサマーキャンプ参加者の感想から、ことばを学ぶ自分なりの意味を見つけたり、自分の思いが伝わることの楽しさを実感している様子がよくわかります。〔→主要事業データp.26〕

2012年度の 新しい取り組み

2012年度は新規事業として二つの交流事業を実施します。ひとつは、「中国語教育取り組み校経験交流会」です。中国語教育や中国の学校との交流を実施している、あるいはこれから取り組もうとしている学校の校長先生に参加していただき、中国語教育の意義を確認したり、各校が抱える課題や疑問を共有し、情報を交換します。この事業では、2008年度から実施している「教育代表団の中国派遣事業」に参加した校長とのネットワークを維持することも目的のひとつとしています。

もうひとつは、日本で韓国語を学んでいる中高校生と韓国で日本語を学んでいる中高校生との交流プログラムを韓国で実施する事業です。今注目されているK-POPダンスを踊ったり、Tシャツをデザインするなど、中高校生が関心をもつ活動と一緒に取り組み、参加者の韓国語や日本語のコミュニケーション能力、他者とつながる力の向上をめざします。

共感の輪を広げるために

より多くの方々にTJFのミッションに賛同し、さまざまなかたちで事業に参画していただくために、2012年4月に「コラボレーター制度」を設けました。8月末現在、18名の方が登録し、事業の広報活動、海外からのお客様のアテンド、ウェ



ブサイトの制作など、それぞれ得意な分野でご協力いただいています。

6月には、TJFの事務所で初めてのコラボレーター交流会を開きました。高校で国際交流に取り組んでいた元校長先生、中国語を教えている大学の先生、中国語を学び国際交流に関心をもっている大学生など、さまざまな経験をもっているコラボレーターの方々が歓談し、議論を交わしました。

これまでに、「日中高校生のサマーキャンプ」のしおりづくりや発送、中国語版ウェブサイトのチェック、TJFが実施する事業の広報などに協力していただきました。

facebookオープン

新しい交流の場として、facebookにオフィシャルページを開設しました。「くりっくにつぼん」の取材現場や「日中

コラボレーターになるには

www.tjf.or.jp/jp/collabo.html から登録フォームに入力してください。



コラボレーターとしての登録が完了すると、登録完了メールがTJFから届きます。

コラボレーターになったら

協力していただきたい活動があるときに、内容、日時、場所などをメールでご連絡します。



協力できる方はメールでご返信ください。



活動内容や量に応じて、どなたにご協力いただくかを決めて、TJFからお願いのメールをお送りします。

主要事業カレンダー

- 2012年 4月・『国際文化フォーラム通信』第94号「新しい公共を担う」を発行
- ・沖縄県立向陽高等学校の中国語カリキュラムに台湾の高雄高級工業職業学校との交流学习を取り入れた「協働を生み出すプログラムづくり」を実施〔～2013年3月〕
- 5月・高校生のための中国語講座「楽しく学ぼう！中国語」をISI国際学院と共催〔～7月／東京〕
- ・「中高生のための韓国語講座2012」を駐日韓国大使館韓国文化院、同世宗学堂と共催〔毎週土曜日～2013年2月／東京〕
- 6月・『外国語学習のめやす2012』の実践をサポートする「めやすWeb」をオープン
- 7月・「互いのことを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」を実施〔7月23日～8月2日／中国吉林省長春市〕
- ・平成24年度高等学校中国語担当教員研修を実施〔7月24日～8月6日／中国吉林省長春市〕
 - ・『国際文化フォーラム通信』第95号「未来（あす）を生きぬく力」を発行
- 8月・2012年外国語担当教員セミナー・高等学校の韓国語中国語教師研修を関西大学大学院外国語教育学研究科と共催〔8月3～7日／大阪〕
- ・「協働を生み出すプログラムづくり」の一環として台湾の高雄高級工業職業学校の教師と生徒を招聘〔8月20～23日／沖縄県八重瀬町〕
 - ・中国大連市日本語教師研修を実施〔8月29～30日／中国遼寧省大連市〕
- 10月・「くりっくにつぼん」リニューアルオープン
- ・「協働を生み出すプログラムづくり」の一環として台湾の高雄高級工業職業学校と沖縄県立向陽高等学校の交流プロジェクトを企画・実施〔10月17～21日／台湾高雄市〕
 - ・『国際文化フォーラム通信』第96号「21世紀型スキルとは（仮題）」を発行
 - ・中国黒龍江省教育代表団を招聘
 - ・中国語教育取り組み校経験交流会を実施〔10月19～20日／岐阜市〕
 - ・中国東北三省日本語教師研修を実施〔10月27～28日／中国黒龍江省ハルビン市〕
- 11月・日本の教育代表団を中国に派遣〔11月20～24日／中国山東省青島市〕
- 2013年 1月・『国際文化フォーラム通信』第97号を発行
- 2月・中国東北三省二外日本語モデルカリキュラム作成者を招聘
- 3月・日韓高校生の交流プログラムを実施

高校生のサマーキャンプ」の活動など、事業の現場をリアルタイムでレポートしています。特に86名の高校生が参加した中国のサマーキャンプでは、寮生活や活動の様子を写真入りで毎日伝えました。参加した生徒の保護者から、中国での様子を知って安心できた、いきいきとした笑顔を見て嬉しかったという声が多く寄せられました。

facebookに登録していなくても記事を読むことはできます。まずは一度ご覧ください。そして、周囲の方々にもぜひご紹介ください。

▶ www.facebook.com/TheJapanForum



2011年度の決算報告

貸借対照表

2012年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	12,521,458	20,444,659	△ 7,923,201
未収収益	5,461,524	4,545,834	915,690
前払金	0	77,580	△ 77,580
前払費用	1,516,813	1,315,830	200,983
仮払金	517,040	0	517,040
流動資産合計	20,016,835	26,383,903	△ 6,367,068
2 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	300,000,000	300,000,000	0
投資有価証券	1,700,000,000	1,700,000,000	0
基本財産合計	2,000,000,000	2,000,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当預金	28,130,647	30,306,672	△ 2,176,025
事業運営引当預金	55,044,240	17,886,417	37,157,823
育児介護雇用安定等引当預金	397,375	397,300	75
メナーシャ市日本語教育促進事業引当預金	136,060	0	136,060
学習のめやす出版引当預金	294	3,000,000	△ 2,999,706
特定資産合計	83,708,616	51,590,389	32,118,227
(3) その他固定資産			
建物付属設備	3,651,047	3,904,269	△ 253,222
什器備品	1,550,466	412,741	1,137,725
電話加入権	290,400	290,400	0
敷金	9,226,915	9,226,915	0
その他固定資産合計	14,718,828	13,834,325	884,503
固定資産合計	2,098,427,444	2,065,424,714	33,002,730
資産合計	2,118,444,279	2,091,808,617	26,635,662
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	2,551,385	3,241,897	△ 690,512
未払費用	417,415	108,127	309,288
預り金	1,692,927	2,724,931	△ 1,032,004
リース債務	547,321	0	547,321
賞与引当金	3,163,600	4,711,666	△ 1,548,066
流動負債合計	8,372,648	10,786,621	△ 2,413,973
2 固定負債			
リース債務	840,067	0	840,067
役員退職慰労引当金	0	683,516	△ 683,516
退職給付引当金	28,685,283	28,533,839	151,444
固定負債合計	29,525,350	29,217,355	307,995
負債合計	37,897,998	40,003,976	△ 2,105,978
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
民間助成金	533,729	3,397,300	△ 2,863,571
寄付金	2,055,044,240	2,017,886,417	37,157,823
指定正味財産合計	2,055,577,969	2,021,283,717	34,294,252
(うち基本財産への充当額)	(2,000,000,000)	(2,000,000,000)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(55,577,969)	(21,283,717)	(34,294,252)
2 一般正味財産	24,968,312	30,520,924	△ 5,552,612
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	2,080,546,281	2,051,804,641	28,741,640
負債及び正味財産合計	2,118,444,279	2,091,808,617	26,635,662

正味財産増減計算書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益				
基本財産受取利息	35,880,120	33,927,525	1,952,595	
特定資産運用益				
特定資産受取利息	7,315	12,257	△ 4,942	
受取会費				
賛助会員受取会費	10,570,000	11,970,000	△ 1,400,000	
事業収益				
事業収益	10,429,027	538,800	9,890,227	受取負担金より
受取補助金等				
受取民間助成金	13,460,212	17,428,760	△ 3,968,548	
受取負担金				
受取負担金	0	8,916,050	△ 8,916,050	事業収益へ計上先を変更
受取寄付金				
受取寄付金	78,146,417	111,393,583	△ 33,247,166	残額は指定正味財産にあり
雑収益				
雑収益	12,736	26,839	△ 14,103	
経常収益計	148,505,827	184,213,814	△ 35,707,987	
(2) 経常費用				
事業費				
役員報酬	130,334,305	149,289,947	△ 18,955,642	
役員賞与引当金繰入額	4,923,624	2,777,757	2,145,867	中野理事すべて役員報酬に
役員退職慰労引当金繰入額	0	634,666	△ 634,666	
給料手当	0	69,802	△ 69,802	
賞与引当金繰入額	47,655,679	65,274,276	△ 17,618,597	スタッフ1名8月退職+新規採用なし
退職給付費用	2,642,467	3,337,400	△ 694,933	
臨時雇賃金	4,307,944	5,341,684	△ 1,033,740	
福利厚生費	401,640	225,100	176,540	
会議費	7,246,351	9,075,883	△ 1,829,532	
渉外費	4,532,838	2,616,663	1,916,175	学習のめやす関連会合増
旅費交通費	279,616	971,904	△ 692,288	接待交際費より科目名変更
通信運搬費	18,392,734	19,464,212	△ 1,071,478	ANAの支援で経費削減
減価償却費	3,161,638	3,845,111	△ 683,473	
消耗品費	777,764	320,150	457,614	
図書研究費	2,923,390	1,923,009	1,000,381	資料作成内製化、コピー代増
修繕費	16,505	376,469	△ 359,964	
編集出版費	15,750	192,150	△ 176,400	
光熱水料費	9,280,728	10,601,579	△ 1,320,851	遼寧教科書分、支払負担金へ
賃借料	515,202	509,363	5,839	
保険料	9,995,130	10,649,522	△ 654,392	
諸謝金	1,480,993	1,299,990	181,003	
租税公課	8,159,424	7,793,409	366,015	
支払会費	0	2,710	△ 2,710	
支払負担金	270,374	308,216	△ 37,842	
支払助成金	1,271,000	1,100,000	171,000	遼寧日本語教科書の負担金
支払寄付金	0	0	0	
支払利息	1,395,476	0	1,395,476	
委託費	93,836	0	93,836	
雑費	565,746	567,000	△ 1,254	
管理費	28,456	11,922	16,534	
役員報酬	23,809,849	34,970,964	△ 11,161,115	
役員賞与引当金繰入額	3,283,776	13,486,246	△ 10,202,470	岡崎常務退任のため
役員退職慰労引当金繰入額	0	158,667	△ 158,667	
給料手当	0	315,939	△ 315,939	
賞与引当金繰入額	9,644,178	8,925,060	719,118	時間外手当増加
退職給付費用	521,133	580,933	△ 59,800	
臨時雇賃金	551,840	1,126,012	△ 574,172	
福利厚生費	47,330	0	47,330	
会議費	1,674,112	2,631,662	△ 957,550	
渉外費	494,994	60,120	434,874	
旅費交通費	113,623	64,303	49,320	接待交際費より科目名変更
通信運搬費	170,327	506,420	△ 336,093	
減価償却費	529,511	527,043	2,468	
消耗品費	291,665	106,717	184,948	
図書研究費	347,395	298,622	48,773	
修繕費	147,720	0	147,720	
編集出版費	259,213	64,050	195,163	
光熱水料費	22,260	0	22,260	
賃借料	171,927	177,070	△ 5,143	
保険料	3,319,698	3,487,906	△ 168,208	
諸謝金	127,624	20,861	106,763	
租税公課	256,327	1,699,761	△ 1,443,434	
支払会費	180,800	136,400	44,400	
	125,624	123,312	2,312	

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減	備考
支払利息	31,523	0	31,523	
委託費	1,187,754	189,000	998,754	
雑費	309,495	284,860	24,635	
経常費用計	154,144,154	184,260,911	△ 30,116,757	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 5,638,327	△ 47,097	△ 5,591,230	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	△ 5,638,327	△ 47,097	△ 5,591,230	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
過年度損益修正				
前期損益修正損益	85,715	0	85,715	
経常外収益計	85,715	0	85,715	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	85,715	0	85,715	
当期一般正味財産増減額	△ 5,552,612	△ 47,097	△ 5,505,515	
一般正味財産期首残高	30,520,924	30,568,021	△ 47,097	
一般正味財産期末残高	24,968,312	30,520,924	△ 5,552,612	
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等				
受取民間助成金	1,000,000	3,407,800	△ 2,407,800	
基本財産運用益				
基本財産受取利息	35,880,120	33,927,525	1,952,595	
特定資産利息				
受取利息(民間助成金分)	641	0	641	
受取利息(寄付金分)	4,240	0	4,240	
受取寄付金				
受取寄付金	115,040,000	129,280,000	△ 14,240,000	
一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	117,630,749	149,629,868	△ 31,999,119	
当期指定正味財産増減額	34,294,252	16,985,457	17,308,795	
指定正味財産期首残高	2,021,283,717	2,004,298,260	16,985,457	
指定正味財産期末残高	2,055,577,969	2,021,283,717	34,294,252	
III 正味財産期末残高	2,080,546,281	2,051,804,641	28,741,640	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

重要な会計方針は次のとおりである。

当該事業年度より、平成20年度公益法人会計基準を適用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

…… 購入時の取得価額によっている。(償却原価法については、取得価額と債券金額との差額について重要性に乏しいため、適用していない。)

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産及び無形固定資産

…… 定額法によっている。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

…… リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

賞与引当金

…… 職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

退職給付引当金

…… 職員の退職給付の支給に備えるため、期末自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、売買処理を行う。所有権移転外ファイナンス・リース取引については、原則として売買処理を行うが、重要性に乏しい場合には、通常の賃貸借取引に準じた会計処理を行っている。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金				
自由金利型定期預金	300,000,000	0	0	300,000,000
投資有価証券				
三菱UFJセキュリティーズINTL PRD債	500,000,000	0	0	500,000,000
ジェッツINTLスリーLTD SR. 263	500,000,000	0	0	500,000,000
第19回三菱東京UFJ銀行期限前償還条項付社債(劣後特約付)	200,000,000	0	0	200,000,000
三菱UFJ証券株式会社 ステップアップ債	300,000,000	0	300,000,000	0
ドイツ復興金融公庫 リバースフローター債	200,000,000	0	200,000,000	0
ノムラヨーロッパファイナンスエヌブイ NO. 26366	0	200,000,000	0	200,000,000
オーストラリア コモンウェルス銀行 リバースデュアル債	0	300,000,000	0	300,000,000
小 計	2,000,000,000	500,000,000	500,000,000	2,000,000,000
特定資産				
退職給付引当預金	30,306,672	3,007,467	5,183,492	28,130,647
事業運営引当預金	17,886,417	115,044,240	77,886,417	55,044,240
育児介護雇用安定等引当預金	397,300	75	0	397,375
メナーンシャ市日本語教育促進事業引当預金	0	1,000,000	863,940	136,060
学習のめやす出版引当預金	3,000,000	566	3,000,272	294
小 計	51,590,389	119,052,348	86,934,121	83,708,616
合 計	2,051,590,389	619,052,348	586,934,121	2,083,708,616

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金				
自由金利型定期預金	300,000,000	(300,000,000)	—	—
投資有価証券				
三菱UFJセキュリティーズINTL PRD債	500,000,000	(500,000,000)	—	—
ジェットINTLスリーLTD SR. 263	500,000,000	(500,000,000)	—	—
第19回三菱東京UFJ銀行期限前償還条項付社債(劣後特約付)	200,000,000	(200,000,000)	—	—
ノムラヨーロッパファイナンスエヌブイ NO. 26366	200,000,000	(200,000,000)	—	—
オーストラリア コモンウェルス銀行 リバースデュアル債	300,000,000	(300,000,000)	—	—
小 計	2,000,000,000	(2,000,000,000)	—	—
特定資産				
退職給付引当預金	28,130,647	—	—	(28,130,647)
事業運営引当預金	55,044,240	(55,044,240)	—	—
育児介護雇用安定等引当預金	397,375	(397,375)	—	—
メナーシャ市日本語教育促進事業引当預金	136,060	(136,060)	—	—
学習のめやす出版引当預金	294	(294)	—	—
小 計	83,708,616	(55,577,969)	—	(28,130,647)
合 計	2,083,708,616	(2,055,577,969)	—	(28,130,647)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	4,263,000	611,953	3,651,047
什器備品	5,937,011	4,386,545	1,550,466
合 計	10,200,011	4,998,498	5,201,513

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
三菱UFJセキュリティーズINTL PRD債	500,000,000	424,365,000	△ 75,635,000
ジェットINTLスリーLTD SR. 263	500,000,000	508,170,000	8,170,000
第19回三菱東京UFJ銀行期限前償還条項付社債(劣後特約付)	200,000,000	200,268,000	268,000
ノムラヨーロッパファイナンスエヌブイ NO. 26366	200,000,000	195,220,000	△ 4,780,000
オーストラリア コモンウェルス銀行 リバースデュアル債	300,000,000	256,830,000	△ 43,170,000
合 計	1,700,000,000	1,584,853,000	△ 115,147,000

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
民間助成金						
高校中国語・韓国語の学習のめやす出版	(社)東京倶楽部	3,000,000	566	3,000,272	294	指定正味財産
育児・介護雇用安定等	(財)21世紀職業財団	397,300	75	0	397,375	指定正味財産
メナーシャ市日本語教育促進	(社)尚友倶楽部	0	1,000,000	863,940	136,060	指定正味財産
中国における好朋友推進事業	(公財)三菱UFJ国際財団	0	5,000,000	5,000,000	0	
高校中国語韓国語の学習のめやす制作	(公財)かめのり財団	0	1,500,000	1,500,000	0	
中国遼寧省小学校向け日本語教科書制作	(社)尚友倶楽部	0	966,000	966,000	0	
高校中国語韓国語教師研修	中国駐日大使館教育処	0	800,000	800,000	0	
日中の高校生サマーキャンプの実施	中国駐日大使館教育処	0	500,000	500,000	0	
日中の高校生サマーキャンプの実施	双日国際交流財団	0	300,000	300,000	0	
高校中国語韓国語教師研修	駐日韓国文化院 世宗学堂	0	300,000	300,000	0	
日中の高校生サマーキャンプの実施	中国国家漢弁	0	110,000	110,000	0	
日本の教育代表団の中国派遣	中国駐日大使館教育処	0	100,000	100,000	0	
高校中国語韓国語教師研修	中国駐日大使館教育処	0	20,000	20,000	0	
合 計		3,397,300	10,596,641	13,460,212	533,729	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
受取寄附金への振替額	77,886,417
基本財産受取利息への振替額	35,880,120
受取助成金への振替額	3,864,212
合 計	117,630,749

8. 引当金の内訳

引当金の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	4,711,666	3,163,600	4,711,666	—	3,163,600
役員退職慰労引当金	683,516	0	475,000	208,516	0
退職給付引当金	28,533,839	4,859,784	4,708,340	—	28,685,283

9. 受取会費の内訳

受取会費の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
法人賛助会員会費 41社	10,450,000
個人賛助会員会費 12名	120,000
合 計	10,570,000

10. 事業収益の内訳

事業収益の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
日中高校生のサマーキャンプ 参加費(88名)	7,978,365
高等学校中国語韓国語研修会 参加費(94名)	1,071,980
日本の教育代表団中国派遣 参加費(14名)	1,125,910
委員手当、講師謝金等 12件(文化庁国語科、東京外国語大学等)	252,772
合 計	10,429,027

11. 受取寄付金の内訳

受取寄付金の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
使途特定寄附金	
(株)講談社 ※	77,886,417
一般寄附金	
個人 66名	260,000
合 計	78,146,417

※使途特定寄附金として指定正味財産にて受入れた115,040,000円のうち、一般正味財産へ振替えたもの

2011年度の実施事業一覧

I 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

事業内容	実施時期	実施場所
「くりっくにつぼん」ウェブサイトの運営	通年	
「高校生のフォトフォトフォト!」ウェブサイトの運営	通年	
遼寧省小学校日本語教科書『小学日語教材』(遼寧省基礎教育教學研究研修センター編)の編集・出版に協力	通年	中国
米国ウィスコンシン州メナーシャ合同学区の日本語教育を支援	通年	米国メナーシャ市
第33回よみうり写真大賞高校生部門「フォト&エッセーの部」(読売新聞社主催)を後援	8月-2012/1	東京
吉林省教育代表団を招聘	11/28-12/3	東京、埼玉、山梨
東北三省二外日本語教師・遼寧省日本語教師研修を共催	12/23-25	中国瀋陽市
遼寧省教育代表団を招聘	2/19-23	東京、埼玉
米国ウィスコンシン州メナーシャ市教育代表団を招聘	3/31-4/6	東京、高知
『Takarabako』を発行	No.28	6月
	No.29	9月
「Takarabako」ウェブサイトの運営	通年	
『ひだまり』を発行	第47号	6月
	第48号	9月
「ひだまり」ウェブサイトの運営	通年	

II 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

事業内容		実施時期	実施場所	
「学習のめやす」を作成	『学習のめやす2011—高校からの中国語・韓国語—』ダイジェスト版を発行	9月		
	『外国語学習のめやす2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』を発行	2012/3		
拓殖大学第一高等学校が課外授業として実施する「韓国語講座」に協力		4月-2012/1	東京	
「中高生のための韓国語講座2011」を共催		5月-2012/2	東京	
高校生のための土曜日中国語講座「学んでみよう中国語!」(桜美林大学孔子学院主催)に協力		5/21-7/30	神奈川	
高校の中国語・韓国語教育を応援する「Ringo」ウェブサイトを開設		6月		
高等学校中国語教育研究会の活動に協力	事務局	通年		
	2011年高等学校中国語教育全国大会を後援	6/18、19	大阪	
高等学校中国語教育研究会支部活動を後援	第7回沖縄県高校生中国語発表会	10/22	沖縄県浦添市	
	第16回近畿地区高等学校中国語弁論大会	11/12	大阪	
	第11回東海地区高校生中国語発表会	11/19	名古屋市	
	第17回高校生中国語発表大会	11/23	東京	
	第10回九州・山口地区高校生中国語発表会	12/11	北九州市	
	第8回北海道地区高校生中国語発表会	12/18	札幌市	
	第3回山陰地区高校生中国語発表会	2/18	鳥取県米子市	
	第12回北陸地区高校生中国語発表会	3/17	石川県金沢市	
	第4回「漢語橋」世界中中生中国語コンテスト	西日本地区予選大会(在大阪中国総領事館主催)を後援	6/19	京都
	地区予選大会に協力	東日本地区予選大会(在日本中国大使館教育処主催)に協力	7/17	東京
平成23年度高等学校中国語担当教員研修を共催		7/24-8/5	中国長春市	
2011年高等学校中国語韓国語教師研修を共催		7/30-8/3	神奈川	
2011年外国語担当教員セミナーを共催(上記研修の一部として)		7/30-31	神奈川	
ミニシンポジウム「21世紀の日本の外国語教育を考える」を主催		7/31	神奈川	
高校生のための土曜日中国語講座「楽しく学ぼう! 中国語」を共催		10-12月	東京	
日本の教育代表団を中国に派遣(中国国家漢弁主催)		11/22-26	中国ハルビン市	
高等学校韓国朝鮮語教育研修東京大会(JAKEHS主催)を後援		11/26-27	東京	

「話してみよう韓国語2011～2012」 地方大会を後援	第1回富山大会 (富山大会実行委員会、駐日韓国大使館韓国文化院主催)	12/3	富山市
	第5回熊本大会 (熊本大会実行委員会、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催)	12/10	熊本市
	第10回東京・大学生一般大会 (駐日韓国大使館韓国文化院、神田外語大学主催)	12/11	東京
	第7回鳥取大会 (鳥取県、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催)	12/11	米子市
	第7回青森大会 (青森大会実行委員会、駐日韓国大使館韓国文化院主催)	12/18	青森市
	第3回福岡大会 (福岡大会実行委員会、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催)	12/18	福岡市
	第2回愛知大会 (愛知大会実行委員会、駐日韓国大使館韓国文化院主催)	1/7	名古屋市
	第3回東京・中高生大会 (東京・中高生大会実行委員会主催)	1/29	東京
	第10回大阪大会 (駐大阪韓国領事館韓国文化院主催)	2/19	大阪
	第7回鹿児島大会 (鹿児島大会実行委員会、駐大阪韓国領事館韓国文化院主催)	2/26	鹿児島市
	第3回新潟大会 (新潟大会実行委員会、駐日韓国大使館韓国文化院主催)	2/26	新潟市
	第29回全日本中国語スピーチコンテスト(日本中国友好協会主催)を後援(国際文化フォーラム賞を贈呈)	1/8	東京
	シンポジウム「未来(あす)を生きぬくための外国語教育に挑む」を共催	3/3	東京
	クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会に協力	3/17	東京

Ⅲ 国内外の小中高校生間や教育関係者間の交流を促進する事業

事業内容	実施時期	実施場所
世界の中高校生の交流プロジェクト「つながる」の運営	通年	
「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」(中国国家漢弁主催)を実施	7/25-8/3	中国長春市、 北京市

Ⅳ TJF広報活動

事業内容	実施時期	実施場所
TJFウェブサイトの運営	通年	
『国際文化フォーラム通信』を発行	第90号	4月
	第91号	7月
	第92号	10月
	第93号	1月
「国際文化フォーラム通信」ウェブサイトの運営	通年	
『事業報告2010-2011』を発行	日本語版	8月
	英語版	8月
	中国語版	8月
	韓国語版	10月
広報冊子『であい、つながる』を発行	12月	

主要事業データ

I 海外の中小高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業	
吉林省教育代表団を招聘	
期間	11月28日～12月3日
場所	東京、埼玉、山梨
主催	TJF
助成	公益財団法人三菱UFJ国際財団
招聘者	6名(吉林省教育学院院長、二外日本語導入モデル校校長ほか)
遼寧省教育代表団を招聘	
期間	2月19～23日
場所	東京、埼玉
主催	TJF
助成	公益財団法人三菱UFJ国際財団
招聘者	9名(遼寧省日本語指導主事、二外日本語導入モデル校校長ほか)
東北三省二外日本語教師研修を共催	
期間	12月23日
場所	遼寧省社会主義学院(中国瀋陽市)
共催	遼寧省基礎教育教学研究研修センター、TJF
助成	公益財団法人三菱UFJ国際財団
講師	中新井綾子(日本語教育専門家、『好朋友』日本側編集委員)、武田育恵(大連市弘文中学日本語教師)
参加者	70名(うち日本語教師65名) 遼寧省内の日本語教師 53名 吉林省内の日本語教師 6名 黒龍江省内の日本語教師 6名 遼寧省内(遼寧省、遼寧省大連市金州区、遼寧省阜新市)日本語指導主事 3名 吉林省日本語指導主事 1名 黒龍江省ハルビン市日本語指導主事 1名
内容	(1)二外日本語教育の意義と目的の共有 (2)『好朋友』ならびに教授方法に関する意見交換
遼寧省日本語教師研修を共催	
期間	12月24～25日
場所	遼寧省社会主義学院(中国瀋陽市)
共催	遼寧省基礎教育教学研究研修センター、TJF
助成	公益財団法人三菱UFJ国際財団
講師	中新井綾子(日本語教育専門家、『好朋友』日本側編集委員)、武田育恵(大連市弘文中学日本語教師)、曾麗雲(元遼寧省日本語指導主事) [ファシリテーター] 神山譲(遼寧大学日本語教師)
参加者	70名(うち日本語教師65名) 遼寧省内の日本語教師 53名 吉林省内の日本語教師 6名 黒龍江省内の日本語教師 6名 遼寧省内(遼寧省、遼寧省大連市金州区、遼寧省阜新市)日本語指導主事 3名 吉林省日本語指導主事 1名 黒龍江省ハルビン市日本語指導主事 1名
内容	(1)外国語(日本語)教育の意義と目的の共有 (2)外国語教育の意義と目標を実現させるための学習活動案づくり

米国ウィスコンシン州メナーシャ市教育代表団を招聘	
期間	2012年3月31日～4月6日
場所	東京、高知
主催	TJF
助成	社団法人尚友倶楽部
招聘者	日本語実施小中高の日本語教師、校長、計4名
『Takarabako』を発行	
仕様	A4判／8ページ／4色
発行月	6月(No.28)、9月(No.29)
部数	6,000部
テーマ	No.28 Bento: Packaging Good Food and Human Warmth No.29 Takarabako History
『ひだまり』を発行	
仕様	A4判／8ページ／4色
発行月	6月(第47号)、9月(第48号)
部数	1,900部
テーマ	第47号 お弁当 ― 食べる楽しみ、伝わる温もり ― 第48号 ひだまりの歴史
II 日本の中小高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業	
日本の教育代表団を中国に派遣	
期間	11月22～26日
場所	中国ハルビン市
主催	中国国家漢弁
実施	TJF
助成	漢語橋基金
後援	在日本中国大使館教育処、在中国日本大使館、在瀋陽日本総領事館
協力	文部科学省
参加者	校長、行政者、計17名
平成23年度高等学校中国語担当教員研修を共催	
期間	2011年7月24日～8月5日
場所	吉林大学(中国長春市)
共催	中国国家教育部、中国国家漢弁、文部科学省、TJF
受託実施	吉林大学
助成	漢語橋基金
講師	黄玉花(吉林大学教授)、邵壯(吉林大学講師)、秦日龍(吉林大学教師)、李軼(吉林大学副教授)、李丹(吉林大学教師)、劉富華(吉林大学教授／主任講師)、呂文傑(吉林大学講師)、葉玉純(吉林大学講師)、楊磊(吉林大学教師)、岳輝(吉林大学教授)、王璦(吉林大学講師)
参加者	11名
「中高生のための韓国語講座2011」を共催	
期間	5月～2012年2月
場所	駐日韓国大使館韓国文化院(東京)
主催	駐日韓国大使館韓国文化院、駐日韓国文化院世宗学堂、TJF
講師	梁民喆
参加者	23名

高校生のための土曜日中国語講座「楽しく学ぼう! 中国語」を共催	
期間	10～12月
場所	ISI国際学院(東京)
共催	ISI国際学院、TJF
講師	展偉静(横浜学園高等学校講師)
参加者	15名

『学習のめやす』を作成	
期間	4月～2012年3月(事業開始は2009年度)
内容	総合的コミュニケーション能力の獲得をめざした中国語と韓国語の学習目標・内容・方法の開発
	〔全体監修〕 當作靖彦(米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授) 〔中国語部会〕 植村麻紀子(神田外語大学専任講師)、胡興智(日中学院専任講師)、胡玉華(関西学院大学常勤講師)、千場由美子(大阪府立柴島高等学校教諭、2010年5月から参加)、藤井達也*(埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭)、森茂岳雄(中央大学教授)、山崎直樹(関西大学教授) 〔韓国語部会〕 任喜久子(大阪府立花園高等学校教諭)、釜田聡(上越教育大学教授、2010年4月から参加)、金順玉(フェリス学院大学非常勤講師、2010年4月から参加)、金孝卿(国際交流基金日本語国際センター専任講師)、中川正臣(韓国培材大学専任講師、2010年5月から参加)、阪堂千津子(東京外国語大学非常勤講師)、山下誠*(神奈川県立鶴見総合高等学校教諭) 〔事務局〕 中野佳代子(TJF業務執行理事)、水口景子(TJF事務局長)、長江春子(TJFプログラム・オフィサー)、中野敦(TJFプログラム・オフィサー) *部会リーダー

2011年高等学校中国語韓国語教師研修を共催	
期間	7月30日～8月3日
場所	国民生活センター、桜美林大学(神奈川)
主催	TJF
共催	桜美林大学
特別共催	在日本中国大使館教育処、駐日韓国大使館韓国文化院、駐日韓国文化院世宗学堂
助成	公益財団法人かめのり財団
後援	文部科学省
協力	高等学校中国語教育研究会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク
主任講師 講師	當作靖彦(米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)〔中国語担当〕 植村麻紀子(神田外語大学専任講師)、胡玉華(関西学院大学常勤講師)、千場由美子(大阪府立柴島高等学校教諭)、藤井達也(埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭)、山崎直樹*(関西大学教授)〔韓国語担当〕 金孝卿*(国際交流基金日本語国際センター専任講師)、任喜久子(大阪府立花園高等学校教諭)、中川正臣(韓国培材大学専任講師)、阪堂千津子(東京外国語大学非常勤講師)、山下誠(神奈川県立鶴見総合高等学校教諭) *各言語のリーダー
参加者	113名

内容	(1)高等学校の外国語教育(中国語・韓国語教育)の目標設定・内容・方法に関する考え方や理論に対する理解を深め、学習者がコミュニケーション能力を獲得できるようにするための授業のあり方を考える。(2)高等学校の中国語や韓国語の実際の授業づくりにグループで取り組む。(3)高等学校において中国語や韓国語を担当している教員のネットワークを強化する。 以上を目的とし、前半2日間で講義形式の研修を行い、後半3日間で中国語と韓国語に分かれ、授業で実践する教案をグループワークにより作成し、発表・検討した。
----	---

ミニシンポジウム「21世紀の日本の外国語教育を考える」を主催	
期日	7月31日
場所	国民生活センター(神奈川)
参加者	118名
パネリスト	藤井達也(埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭)／中国語教育、山下誠(神奈川県立鶴見総合高等学校教諭)／韓国語教育、小笠原藤子(慶應義塾大学 SFC、湘南藤沢高等学校講師)／ドイツ語教育、櫻木千尋(カリタス女子中学高等学校教諭)／フランス語教育、小田晴巳(神奈川県立横浜国際高等学校教諭)／スペイン語教育、當作靖彦(米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)／日本語教育、松本茂(立教大学教授)／英語教育

『学習のめやす2011 ― 高校からの中国語・韓国語 ―』ダイジェスト版を発行	
仕様	A4判／12ページ／4色
発行月	9月
部数	2,000部

『外国語学習のめやす2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』を発行	
仕様	A4判／112ページ／2色
発行月	3月
部数	5,000部
助成	公益財団法人かめのり財団 社団法人東京倶楽部

『外国語学習のめやす2012』完成記念シンポジウムを共催	
名称	未来(あす)を生きぬくための外国語教育に挑む
期日	3月3日
場所	上智大学(東京)
共催	上智大学国際言語情報研究所、TJF
助成	公益財団法人かめのり財団
モデレーター パネリスト	當作靖彦(米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授) 橘・フクシマ・咲江(G&S Global Advisors代表取締役社長、経済同友会副代表幹事)、可越(日中コミュニケーション株式会社取締役)、吉田研作(上智大学教授)、齊藤孝(千葉県立市川高等学校校長)

ファシリテーター、記録者	■テーマ／ネットワーク Aグループ／ファシリテーター：迫田久美子(広島大学教授) 記録者：金孝卿(国際交流基金日本語国際センター専任講師) Bグループ／ファシリテーター：齋藤ひろみ(東京学芸大学教授) 記録者：植村麻紀子(神田外語大学専任講師) ■テーマ／アドボカシー ファシリテーター：井上洋(日本経済団体連合会 社会広報本部長) 記録者：阪堂千津子(東京外国語大学非常勤講師)
	■テーマ／制度 Aグループ／ファシリテーター：臼山利信(筑波大学准教授) 記録者：任喜久子(大阪府立花園高等学校教諭) Bグループ／ファシリテーター：山崎直樹(関西大学教授) 記録者：藤井達也(埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭) ■テーマ／教育環境 Aグループ／ファシリテーター：長岡富美子(新宿区教育委員会事務局教育支援課教育センター国際理解室職員) 記録者：千場由美子(大阪府立柴島高等学校教諭) Bグループ／ファシリテーター：山下誠(神奈川県立鶴見総合高等学校教諭) 記録者：中川正臣(元韓国培材大学専任講師)
企画協力	神谷善弘(大阪学院大学准教授)、境一三(慶應義塾大学教授)、山崎吉朗(日本私学教育研究所専任研究員)、中野佳代子(オフィスK・TJF理事)
参加者	169名

III 国内外の小中高校生間や教育関係者間の交流を促進する事業

「互いのことを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」を実施

漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ

期間	7月25日～8月3日
場所	中国長春市、北京市
主催	中国国家漢弁
実施	TJF
助成	在日本中国大使館教育処、公益財団法人双日国際交流財団
後援	在日本中国大使館教育処、外務省
協力	文部科学省
輸送協力	ANA
参加者	中国語を学ぶ日本の高校生90名、引率教師等、計98名

日本語橋：中国の高校生サマーキャンプ

期間	7月27日～8月2日
場所	中国長春市
主催	吉林省教育学院
共催	TJF
助成	国際交流基金北京日本文化センター、公益財団法人双日国際交流財団
参加者	日本語を学ぶ中国の高校生46名

IV TJF広報活動

『国際文化フォーラム通信』を発行

仕様	A4判／16ページ／2色
発行月	4月(第90号)、7月(第91号)、10月(第92号)、1月(第93号)
部数	5,000部

テーマ	第90号 「学びを深める交流」 異なる背景をもつ相手と関わり、ともに考え、ともになにかを創る体験は、子どもたちがこれからグローバル社会で生きていく力を身につけていくことにもつながる。教師は、子どもたちがどのような力を身につけることをめざし、どのように交流活動をつくっているのか。また、そこに参加する子どもたちは、どのような過程を経て、なにを学ぶのか。実例を紹介するとともに、学びを深める交流を行うために超えるべき課題と経験を紹介した。
	第91号 「小さな発見 大きな学び」 毎年夏、TJFが中国で実施する「サマーキャンプ」には、中国語を学ぶ高校生90名が参加する。10日間にわたり、中国語の授業や家庭訪問、同世代との交流などさまざまなプログラムが用意されている。これらの体験を通して、中国に対するイメージはどう変わったのか。彼らは何を見て、何を感じ、考えたのか。彼らが日々ノートに綴った「つぶやき」を紹介した。
	第92号 「ことばは人をつなぐ」 新たなことばを学ぶことでさまざまなことを発見し、人と出会い、つながる。2006年からTJFが現場の先生とともに取り組んできた高校の中国語と韓国語の「学習のめやす」が完成するに当たって、人をつなぐための外国語の学びはどうあるべきなのか、授業をどう変えていったらいいのか、考え方と手がかりを紹介した。
	第93号 「ICT(情報通信技術)で変える学び」 子どもたちが、高度化が進む21世紀の情報化社会を生きていくためにどんな力が必要なのか。学力や学びの捉え直しが始まっている。新しい学びのためにどのような授業をつくっていったらいいのか。電子黒板やPC、その他のICTが大きな役割を担い始めている。新しい学びとは何か、学びを変えるためにICTをどう活用したらいいのかを実例とともに紹介した。

事業報告(日本語版)を発行

仕様	A4判／32ページ／1色(一部4色)
発行月	8月
部数	1,000部

事業報告(英語版・中国語版・韓国語版)を発行

仕様	A4判／8ページ／4色(一部1色)
発行月	英語版、中国語版：8月、韓国語版：10月
部数	各100部

広報冊子を作成

名称	『であい、つながる』
仕様	新書判／48ページ／1色
発行月	12月
部数	2,000部

財団の概要

設立	1987年6月22日 2011年4月1日、公益財団法人に移行
出捐企業	王子製紙株式会社 株式会社講談社 大日本印刷株式会社 凸版印刷株式会社 日本製紙株式会社 株式会社三菱東京UFJ銀行
基本財産	20億円

財団の組織

評議員会長 評議員	野間 省伸	(株)講談社代表取締役社長	
	饗庭 孝典	東アジア近代史学会副会長	
	足立 直樹	凸版印刷(株)代表取締役会長	
	北島 義斉	大日本印刷(株)代表取締役副社長	
	中村 雅知	(株)日本製紙グループ本社取締役会長	
	奈良 久彌	(株)三菱総合研究所特別顧問	
	持田 克己	(株)講談社専務取締役	
	渡辺 正	王子製紙(株)取締役専務執行役員	
(評議員任期：一期4年)			
代表理事	理事長	渡邊 幸治	公益財団法人日本国際交流センターシニア・フェロー 元駐ロシア特命全権大使
代表理事	常務理事(常勤) 理事	内藤 裕之	(株)講談社社長室付
		上野 田鶴子	特定非営利活動法人日本語教育研究所理事長
		梅田 博之	麗澤大学前学長、東京外国語大学名誉教授
		金丸 徳雄	(株)講談社取締役
		興水 優	佐野短期大学学長、東京外国語大学名誉教授
(理事任期：一期2年)			
監事		木村 芳友	(株)講談社常任監査役
		清水 至	公認会計士、(独)理化学研究所監事
(監事任期：一期2年)			

顧問

小田 厚	(株)トーハン海外事業部長
加藤 哲朗	日本出版販売(株)専務取締役
北島 義俊	大日本印刷(株)代表取締役社長
佐藤 郡衛	東京学芸大学 理事・副学長
篠田 和久	王子製紙(株)代表取締役会長
鈴木 孝夫	慶応義塾大学名誉教授
長瀬 眞	(株)ANA総合研究所代表取締役社長
野口 文博	日本製紙物流(株)代表取締役社長
藤田 弘道	凸版印刷(株)相談役
鮑 啓東	人材派遣健康保険組合前理事長
松岡 紀雄	神奈川大学名誉教授
三木 繁光	(株)三菱東京UFJ銀行特別顧問
水谷 修	名古屋外国語大学学長
吉田 研作	上智大学教授

(顧問任期：一期2年)

敬称略、五十音順
2012年8月現在

事務局

事務局長	水口 景子	
主任	藤掛敏也	室中直美
副主任	千葉美由紀	長江春子
職員	安藤まどか	柴田幹子 中野敦 森亮介 森本雄心

寄附のお願い

さまざまなことばと文化の学び、異なる文化的背景をもつ人たちとの交流を通じて、子どもたちが21世紀を生きぬく力を育むことがTJFのミッションです。

TJFのミッションと事業にご賛同くださる方々に寄附をお願いしております。寄附金につきましては、税制上の優遇措置が適用され、所得税や法人税の控除を受けることができます。

さらに、パブリック・サポート・テスト(PST)の要件を満たせば、税額控除制度が適用される公益財団になることができ、個人の寄附者は、所得控除か税額控除のどちらが有利なほうを選ぶようになります。そのためには、2年度にわたって各年度100名以上の方々から3,000円以上の寄附があることが必要となっております。2011年度は寄附金が120件に達し、初年度の資格を満たすことができました。改めてお礼申し上げますとともに、第二年度目の要件を満たすため、2012年度も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行払込取扱票で振り込む

口座名：公益財団法人国際文化フォーラム 会費口

口座番号：00130-5-414785

※特定の事業への寄附の場合は、払込取扱票の通信欄に下記の事業名(A～E)をご記入ください。

①(高校の中国語・韓国語教育を推進)、②(日本の文化を発信)、③(互いの言語を学ぶ日中高校生の交流)、④(世界の中高校生の交流サイト)、⑤(中国の小中高校の日本語教育を促進)

銀行から振り込む

三菱東京UFJ銀行 江戸川橋支店(店番号：060) / 普通 4512030

三井住友銀行 大塚支店(店番号：227) / 普通 0575279

三井住友信託銀行 池袋東口支店(店番号：530) / 普通 5146765

▶ 口座名はいずれも 公益財団法人国際文化フォーラム 理事長 渡邊幸治

ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキュウテン)(店番：019) / 当座 0414785

受取人名：ザイ) コクサイブンカフォーラムカイヒグチ

※銀行のATMもしくはインターネットバンキングから振り込まれた方は、お手数ですが、メールでkifu@tjf.or.jpまで、お名前と領収書送付先の住所をお知らせください。また、特定事業への寄附の場合はあわせて事業名(上記A～E)をお知らせください。

継続的な支援をしていただく方には賛助会員制度もあります。

法人会員一口 50,000円、個人会員一口 10,000円(年額)

寄附をしてくださった方のご芳名は、ウェブサイトと「国際文化フォーラム通信」などの出版物に掲載させていただきます。

賛助会員のお申し込みや寄附に関するお問い合わせは、下記の電話・Fax、E-mailで担当の藤掛(ふじかけ)宛にご連絡ください。

TEL 03-5981-5226 **FAX** 03-5981-5227 **E-mail** kifu@tjf.or.jp

公益財団法人国際文化フォーラム
The Japan Forum

〒112-0013

東京都文京区音羽 1-17-14 音羽YKビル3階

Otowa YK Bldg. 3F

1-17-14 Otowa, Bunkyo-ku, Tokyo 112-0013

Tel: 03-5981-5226 Fax: 03-5981-5227

E-mail: forum@tjfor.jp

<http://www.tjfor.jp/>

©2012 by The Japan Forum, Printed in Japan.